

科目名	観光論入門Ⅰ	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			国際観光学科	■必修 □選択	
英文表記	Introduction to Tourism Theory I	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
ふりがな	いのうえ ひろし	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中		
担当者名	井上 寛	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
		実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	「観光」のキーワードを学ぼう				
到達目標	1. 観光学とはどのような学問なのか全体的に理解できるようになる 2. 観光学のキーワードを理解し、自分の言葉で説明できるようになる。				
授業概要	国際観光学科に入学後、はじめての観光について専門的に学ぶ科目です。これから4年間観光を学ぶ上で必要な知識や考え方を学びます。特に、最新の観光について学ぶことを重視しますので、新聞やニュースの出来事を講義でも取り入れていきます。				
授業計画					
第1回	オリエンテーション—観光を学ぶ意義				
第2回	「観光」とは				
第3回	観光のメリットとデメリット—観光は諸刃の剣				
第4回	SDGsと持続可能な観光				
第5回	日本の観光の発展				
第6回	観光産業論1—旅行業				
第7回	観光産業論2—OTAの台頭				
第8回	観光産業論3—航空・鉄道				
第9回	観光産業論4—ホテル・旅館				
第10回	ホスピタリティ=おもてなし?				
第11回	観光政策				
第12回	観光まちづくり				
第13回	人文観光資源と自然観光資源				
第14回	世界遺産と観光				
第15回	復習				
第16回	定期試験				

<p>授業時間外の 学習</p>	<p>&lt;予習&gt; 授業終了時に次回のキーワードを紹介しますので、教科書、参考文献、WEBサイトなどを活用し、予習をしてください。(90分程度)</p> <p>&lt;復習&gt; ノートを確認し、教科書の該当部分を読んでください。(90分程度)</p> <p>&lt;その他&gt; 新聞やテレビ、インターネットには「観光」の話題が豊富です。常日頃より観光のニュースに関心を持って生活してください。(30分程度)</p>
<p>履修条件 受講のルール</p>	<p>国際観光学科の必修科目に指定されています。今後の学びの基礎となりますのでしっかりと取り組んでください。なお、毎時間参考資料を印刷したA4サイズのノートを配布しますので、バインダーを用意してください。</p>
<p>テキスト</p>	<p>島川崇『新しい時代の観光学概論』ミネルヴァ書房 2020年 (2,800円+税)</p>
<p>参考文献・資料</p>	<p>週刊「観光経済新聞」 ※図書館1階にあります 観光庁 <a href="http://www.mlit.go.jp/kankocho">http://www.mlit.go.jp/kankocho</a> 日本政府観光局(JNTO) <a href="http://www.jnto.go.jp">http://www.jnto.go.jp</a></p>
<p>成績評価の方法</p>	<p>①定期試験(50%)…知識を問う問題と論述問題を課します ②レポート課題(20%)…ポータルサイトに課題を提示しますので指示した方法で提出してください。正当な理由なく提出期限を守らなかった場合は加点しません。 ③小レポート(15%)…毎時間出席カードの裏面に書いてもらいます。なお、課題に対して満足に解答する姿勢が見られない場合は、加点しない場合があります。 ④取り組み姿勢(15%)…遅刻、マナー違反(私語・携帯操作・途中無断退席など)は加点しないほか、悪質な場合は欠席扱いとします。 ※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、期末試験を受けることができません。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>毎週月曜日 1時限(9:00~10:30) 毎週金曜日 3時限(13:00~14:30)</p>
<p>成績評価の基準</p>	<p>秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p>
<p>実務経験及び実務を活かした授業内容</p>	
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>政府は訪日外国人観光客数を4000万人にする目標を立てましたが、外国人観光客がたくさん日本に来て「お金儲け」ができれば、私たちは本当に幸せになれるのでしょうか？新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が流行したいま、日本の観光はどのように進むべきかを考える時期にきています。私たちはどのようにこの問題を解決すればよいのでしょうか。観光論を学ぶことにより、そのヒントが見つかるかもしれません。</p>